

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770103111		
法人名	有限会社國村不動産		
事業所名	グループホーム愛の里		
所在地	高松市上福岡町2005-11		
自己評価作成日	令和3年7月29日	評価結果市町受理日	令和4年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社astream alliance
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360-111
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コミュニケーションが取り難かったり、難しい利用者様が少しでも笑顔で楽しく過ごせるように、くもん学習療法を取り入れている。くもん学習療法は利用者様のみならず、取り組みにより職員育成にも効果があることを期待している。
またコロナ禍における問題や不満が見られる為、少しでも手作り菓子や屋内でのレクリエーション行事等を充実させる事により、楽しみある生活を送って頂きたい。
慰問行事も現在、中止が多く、職員主体による季節行事や誕生日会、コーヒーレクリエーションの実施を利用者様も楽しみにされている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

事業所では地元の住民との相互の交流が盛んである。地元の商店や企業との取引やイベント、ボランティア活動を通じて地域活性化の一端を担っている。利用者には、くもん学習や近所の散策、外食や年中行事、季節ごとのお出掛けを豊富に提供している。
アウトホームな生活の場に加え、レクリエーション活動や慰問、行事を通じて楽しい充実した時間を過ごす仕掛けが出来ており、理念の「笑顔で過ごしましょう」を利用者と職員が実践できる環境も整えられている。コロナ禍でも、室内で楽しい時間が過ごせるよう工夫をして笑顔で取組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝食前の嚥下体操の後に、理念の言葉「笑顔で過ごしましょう」を利用者様と共に発声している	理念は目に付く各所に貼り、職員に意識喚起をされている。毎日の朝食前に利用者と共に「笑顔で過ごしましょう」と唱和されている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会長や推進会議に参加して下さる方より、協力や助言を頂き取り組んでいたが、コロナウイルスの問題で交流会等の参加が出来ていない	創業時から地元の住民が協力して事業所を盛り上げており、地域の恒例行事の一端を担うなど、日頃からの交流や付き合いが盛んである	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月間行事の内容のポスターを地域の商店に掲示して頂き、行事を通じての地域交流や認知症の人の理解、協力支援についての場を設けているが、コロナウイルスの問題で出来ていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議のメンバーに行事参加をして頂き助言や感想を頂いている。相談をした内容等、全体会で話し合い質の向上に取り組んでいたが、コロナウイルスの問題で出来ていない	コロナ禍では、面会や会議が制限されるため、運営推進会議は出来にくくなっている。職員が工夫し取り組み、楽しい日々が過ごせている様子等を文書で報告、もらった意見を次の取組みに活かすよう努められている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に連絡を取り、より良い運営ができるように相談や情報収集を行なっている。ドデカポチャを通じて、保育所や地域施設との交流や保育所のバザーにも参加していたが、コロナウイルスの問題で出来ていない	運営推進会議での情報交換や日常での報告を通じて、事業所の実情を把握しており、信頼関係の構築と連携が図られている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議や勉強会を行い、全職員が正しく身体拘束を理解出来る様に身体拘束の勉強会を増やしている。特にユニットミーティングでは個別ケアについて些細な事からの取り組みにも意見交換を行っている。また、各フロア等の階段出入り口等に関しては、利用者様の安全面を考慮し、施錠されている場所もある	身体拘束に該当する行為につき、定期的に研修する機会を持ち、全体会議や職員の勉強会の実施回数を増やし、考えが深められている。また、ユニットで個別ケアを取り上げ、職員間で意見交換や対処法について些細な事から検討がなされている。階段は内側と外側にあり危険性が高いため、施錠は必要と判断され対処されている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段から、どのような内容が虐待に当たるのかを勉強会やミーティングで具体的に指導している。常に虐待のないように意識し合い日常生活の言葉遣いにも注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	推進会議のメンバーに行事参加をして頂き助言や感想を頂いている。相談をした内容等、全体会で話し合い質の向上に取り組んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用案内時に、入居者様及び家族様に契約諸や重要事項説明書等の疑問点等の無い様に、納得理解して頂けるよう時間を充分にとり、丁寧で分かりやすい説明を心掛けている。また利用者様の状況変化による契約解除の場合は、家族等に対応方針を説明し、可能な支援をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の利用者様の意見や面会時の話し合いの内容等家族会や推進会議に意見を頂いていたが、コロナウイルスの問題で出来ていない。ご意見箱の設置を行ない家族ノートの対応も行なっているが、同じくコロナウイルスの問題で出来ていない。しかし、電話連絡対応は細目に行い、要望等はミーティングで話し合い前向きに取り組んでいる。また随時連絡ノートで情報を共有し合い、早期に反映して行けるよう心掛けている	利用者や家族等の意見は家族会や運営推進会議でよく聞き、その都度対応がなされている。直接会う機会が持てない状況では、電話や郵送でこれまで以上に詳細に連絡するよう努められている。頂いた意見や要望は、早急にミーティングで話し合い検討されている。また、連絡ノートに記載し職員間で情報の共有がなされている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回、全体会議とユニットミーティングで意見を聞いている。また各担当者において、個別に意見を聞く機会を設けている。変更や改善は可能な限り早期に対応するよう心掛けている	月1回の全体会とユニットミーティングで職員に提案や意見を聞く機会が設けられている。また個別に相談を受けて、助言をし職員の労働意欲が高められるよう努められている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々個別に相談、助言等を行っている。個人の問題点や不安点等、早期の解決につなげて、成長やケアの質の向上に取り組んでいる(希望休を聞く、勤務時間調整等)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の段階に応じた研修を勧めたり、指導を行なっている。また各個人が研修してきた内容について勉強会に取り入れ、職員全体を通じて質の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や研修会等で、一諸になった同業者と意見交換を行いながらサービスの質の向上に取り組んでいるが、コロナウイルスの問題で回数が少なくなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、面接時に時間をしっかりと取り、必ず色々な方向からゆったりと話ができる様に笑顔で傾聴できる様に努めている。ご本人様の訴えが聞き取れない時には、家族からの相談が主となるが、不安なく施設入居できるように支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様や家族様の思い、状況を確認しながら面接チェック表等を作成している。不安や要望等をより多く受け止められるよう努めている。要望等は全職員が共有できるように各ユニットファイルに保管して努めて対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設の説明をパンフレットと照らし合わせて時間をかけて行い、御本人様、家族の実情や要望を元に何が必要かを見極め事業所としてできる限りの対応に努めて支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人にあった役割分担を考えている(洗濯物を畳む人、干しに行かれる人、食事用の御盆を拭いて頂く人等)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	居室担当制を設けて月間報告書を毎月送付している。報告書とは別に、利用者様の変化等、家族様と連絡を取りながら、面接時にはコミュニケーションを取り、利用者様を支える関係を築いていたが、コロナウイルスの問題で余り出来ない。個別の携帯電話での対応で個々にコミュニケーションを深めておられる利用者様もいる		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様等と連絡を取り、知人、甥、姪、孫等に面会にきて頂いたり、家族との外出や外食して頂いていたが、コロナウイルスの問題で出来ない	外出や面会が制限される中で、連絡の仲介をしたり、電話を取次ぐなど出来るだけ関係が途切れないよう支援されている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お誕生日会や外出行事(おやつレクや外食レク)また、季節の観賞、散歩等を合同で行う事により、ユニットの違う利用者様との交流を深めていたが、コロナウイルスの問題で施設内での交流も今は少なくなっている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了したご本人様や家族等に何かあれば何時でも相談や支援に応じる姿勢を示している。(介護用品の相談等)又引き続き運営推進会議等に参加して下さっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族から各個人の生活歴を把握し情報を共有している。担当者とは別に月一回のミーティング等で確認している	本人や家族等の要望や意向を聞き取り、個人のこれまでの生活歴を把握、情報共有し、本人にとってより良い暮らしが出来るよう話し合いながら意向に沿った支援の実現が図られている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人が自分らしく生活して行く支援として、個人の歴史やサービス利用に至るまでの生活が維持できるように努めている。また、くもん学習療法時に昭和の出来事や情景文の内容から話を引き出している利用者様もある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方が一目でわかる様に記録に記載している。個々のその時の表情や言葉も記録する様に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日のケアプランのサービスが提供できているかどうか記録に記載している。介護支援専門員の三ヶ月評価とは別に毎月ミーティングを行い、情報共有、ケアプランの見直し、サービス実施状況を確認している(気が付いた事が書けるように気になる所や理由や改善案が書ける様に表を提示している)	介護計画の実施状況を毎日の介護記録に記載している。モニタリングは3ヶ月毎に介護支援専門員が行っている。毎月ミーティングにおいては、ケアプラン実施状況や変更の必要性など、情報共有がなされている。日々の介護で気づいたことを書き留める表で、意見やアイデアが集約されている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別通院ファイル、業務日誌、介護記録で対応しており、介護計画の見直しに活かしている。家族との連絡も健康面、精神面を中心に連絡合っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や家族様の状況の要望に向き合い、職員全体で話し合い連携出来ている。ご本人様の生活が安定し、支える事を念頭に置きプランの変更や物品の購入等、柔軟な支援に努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の喫茶店や回転寿司の外出で、コーヒータイムやおやつを楽しんだり、お昼御飯を頂いている。近隣の公園への散歩や近隣住民に庭を開放して頂き、季節の木々や花を楽しまれていたが、コロナウイルスの問題で外食は出来ていない。また、花見についても小人数でのドライブなったり縮小されているが、出来るだけ楽しんで頂ける様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族からの要望を聞きながら適切な医療を受けられる様に馴染みのかかりつけ医や事業所協力医院への受診を支援している。又要望に応じて訪問診療の対応を行なっている。コロナウイルスの問題で職員による代理受診や画像受診等の相談も行い取り組んでいる	本人や家族等の希望を聞きながら、かかりつけ医が決められている。かかりつけ医と事業所の協力医療機関とも連携して医療面の支援がなされている。要望により往診や訪問診療を行い、コロナ禍では代理受診や画像受診等に対応出来るよう努められている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に健康管理について相談が出来る体制をとっている。個々が利用している訪問看護とも連携を取り施設看護職が利用者様の処置にもあたっている。利用者様に変化がある場合には、協力医院等の医師や看護職員と相談を行い、随時受診など対応を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院と同時に利用者様の情報提供を行っている。入院中は馴染みの職員が見舞い、安心して頂いている。また家族や病院関係者との回復状況等の情報交換を行いながら退院支援に結び付けていたが、コロナウイルスの問題で出来ない		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の在り方についてご本人様や家族様から希望を聞き、事業者で出来る限りの希望に添えるような支援を心掛け、方針を共有している	入所時より重度化や終末期の看取りについて、本人や家族等と相談して、希望が聞き取られている。事業所では出来る限り、意向に添えるような支援を心掛け、医師や家族等とチームを組んで方針を共有しながら協力して取組まれている	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥等、利用者様の身体状態の急変や事故発生時に的確な対応ができる様、定期的な勉強会を行っている。また消防署職員に来て頂き、救急時の対応についての勉強会を実地、指導を定期的に受けている。また、けいれん発作についても具体的な指導を行った		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練を行い、災害時の避難誘導について指導を受けている。家族会でも説明を行い話し合う場を設けている(水消火器等)	多様な災害に備え、年2回避難訓練が実施されている。家族会でも防災の説明や話し合いを行い理解を得るよう努められている。建物が強固で高いので、火災以外は現状で踏みとどまるよう判断されている	利用者の心身の状態では極めて移動は困難で人員不足は否めない。地域との共同の見守りや避難所開設、物品の保管場所の提供など協力関係が発展することに期待します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助時、居室でのオムツ交換時に戸を閉める。声掛けの言葉や声量にも配慮している。入浴後の更衣時にバスタオルを掛ける等、プライバシー保護に努めている。個人の誇り、自尊心を尊重し、プライバシーの確保を統一し徹底している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事について、体調に合わせて形態等を変更したり、栄養状態の悪い利用者様には医師の指示のもと家族様と相談を行ない捕食を考える等、柔軟に対応を行っている。外出や行事参加についてもご本人様の希望や意向の尊重を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同のスペースで過ごされる時間外、レクリエーションの参加等、個々の状態を配慮しながら柔軟に対応を行っている。個々の希望に添った暮らしを提供できる様に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の希望に添って地域美容師の方に来て頂き、散髪や整髪の支援を行なっている。また、家族様とカラーに行かれる利用者様もおられていたが、コロナウイルスの問題で出来ていない		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ミキサー食、キザミ食の利用者様には見守り介助をしつつ、何のおかずであるか説明や栄養についても声掛けを行っている。毎日の食事のメニューをコミュニケーションを取りながら嚥下体操の後に説明を行ない食事が楽しめる様に支援している。また、おやつ手作り季節を感じて頂けるメニューを取り入れている	地産地消の食材や希少糖の利用など食材にこだわり、調理も利用者の身近なキッチンカウンターで行い料理が出来る課程も味わうなど、食事を楽しめる工夫がなされている。また、献立の説明や嚥下体操なども取り入れられている。更に、外食や弁当、手作りおやつが折々に取り入れられ、楽しみが増す取組みとなっている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量の少ない利用者様へは、好みの飲料提供で増量を図っている。嚥下状態に応じて、水分確保ができる様に支援している。何をどれだけ摂取できたかわかるように日誌に記録し、一日の摂取量を把握できるよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別の口腔状態に応じて口腔ケアを行っている。舌ブラシや歯間ブラシ等使用も行なっている。又週一回歯科衛生士による口腔ケア、嚥下体操、口腔内の状態確認を行い必要に応じて歯科医受診等を行なっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えない利用者様には、定期的な時間排泄や声掛けによる排泄介助を行い、個々の排泄リズムを把握できるよう工夫し、自立に向けた支援に努めている。プライバシーを尊重し、排泄介助を行っている。オムツ着用でも排泄のリズムや本人様の意向でポータブルトイレでの排泄対応もを行っている。他、日中は普通の下着を使用して夜間のみリハビリパンツの使用とする等	一人ひとりの排泄のパターンを把握して、日中はトイレでの排泄支援が行われている。個人の状況に合わせて尿取りパット、おむつ、紙パンツ、布パンツを交換して使用する工夫をしている。本人が少しでも自分で行えることを増やす支援で自立度の改善が目指されている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	通常飲んで頂くお茶以外に好みの嗜好品等で出来るだけ水分摂取をして頂けるように取り組んでいる。排泄チェック表を活用し、個人の管理、把握に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	行事や職員の都合の時間帯の入浴しかできていないが、長湯を好まれる方には体調に応じて可能な限り入浴を楽しんで頂けるように支援している。(湯加減への配慮)入浴は一日おきに行い汚染等があった場合には入浴日関係なくシャワー浴等も行っている	入浴は日曜日以外は一日おき、一人週3回～4回は実施されている。プライバシーに配慮して、一対一でゆっくり入浴できるよう取組まれている。身体状況に合わせ機械浴もあり、汚染時等にはシャワー浴等の対応もなされている	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	腰痛のある利用者様には、痛み等に応じて居室で臥床による休息、浮腫の見られる利用者様には下肢挙上、寝返りの出来ない利用者様には、寝返り介助等を行っている。個々の体調管理に努め適切な休息や安眠の支援を行なっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食事、食前の服薬確認を薬一覧表で確認を行い、介護記録への記入。個別受診ファイルを設け内服薬の確認、把握を徹底した支援を行なっている(朝・昼・夕の薬が一目で解るように赤・青・緑と色分けを行なっている)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝いを希望される利用者様に洗濯量みの依頼や洗濯干しを屋上に一緒に行き、得意分野での力が発揮できるように支援している。常に感謝や励ましの言葉を伝え、張り合いや喜びを感じて頂ける様支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望や嗜好に応じて少人数での外出にも取り組み近隣の公園へ散歩に行っている。また近隣の喫茶店や回転寿司等、普段と違った雰囲気や食事を楽しんで頂いている。個々の希望に添って可能な限り、家族様と共に行っているが、コロナウイルスの問題で出来ていない	利用者が喜びを感じ、楽しみにしている外出が出来にくくなり、代替ケアとして感染症対策を行いながら、少人数で近隣に散歩するなど実施されている。また、室内でできる様々なゲームや手作りケーキにドリップコーヒーを淹れて喫茶の雰囲気を楽しむなど工夫して楽しみへの支援がなされている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていたいと思っている利用者様はいないが、御本人様が希望された時にどのような対応を行なうか家族様と相談しながら支援している。また、参拝時にご自分で金銭に触れて御賽銭をして頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様や知人への年賀状の作成や送付の支援を行なっている。また、個人で居室に携帯電話を置かれている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花を活ける。ホールや食堂に季節行事の飾り等を飾り、季節感を取り入れ感じて頂いている。換気時間を作りつつ、エアコン空調の調節を意向を聞きながら対応し、カーテンで眩しさの軽減を行っている	玄関付近にはプランターで咲かせた花が飾られている。ホールや食堂は季節を感じるられる飾りつけがされており、室温や換気にも配慮した清潔な空間となっている。また所々にイスやソファを置き、利用者が寛げるよう配慮されている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き、気の合う利用者様で過ごして頂いている。また和室で休んで頂けるようスペースを設け、思い思いにくつろげる場所を設けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンスや机、椅子等の家具を使用したり、好みの布団カバーやカーテン等の生活用品を使用して、御本人様が居心地良く、安心して過ごして頂ける様にしている	自宅で使い慣れたものを使用して、住み慣れた環境に近づけることで、本人が居心地よく過ごせるよう配慮されている。居室掃除などは、本人の意向を確認しながら一緒に片付けするなどの工夫もなされている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒時の骨折予防の為、フロアは圧縮素材が使用され、安全面を考慮している。また個別ケアを尊重し、個人に合わせて室内歩行時には歩行車対応、しかし2階から1階での常時参加等には、杖や車椅子使用等を利用している。また、出来る事を見つけ役割や生きがいを見出し、力を活かす支援に努めている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝食前の嚥下体操の後に、理念の言葉「笑顔で過ごしましょう」を利用者様と共に発声している。事務所、職員用トイレに理念の言葉を掲示している
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響の為、夏祭り、保育所との交流会等の行事は実施出来ていない
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェの開催の場を設けているが、新型コロナウイルスの影響で開催出来ていない。毎月の行事時の写真を玄関に掲示し、来所者の方に見て頂ける様にしている
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防対策として推進会議が開催出来ていないが、助言を頂ける様にはしている。相談をした内容等、全体会で話し合い質の向上に取り組んでいる
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者に連絡を取り、より良い運営が出来る様に相談や情報収集を行なっている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議や勉強会を行い、全職員が正しく身体拘束を理解し、身体拘束をしない意識を深めている。各フロアの非常階段出入口等に関しましては、利用者様の安全面を考慮し、施錠されている場所もある
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段から、どのような内容が虐待に当たるのかを勉強会やミーティングで知識を深めている。常に虐待の無い様に意識し合い、日常生活の言葉遣いにも注意を払っている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解する事の大切さは分かっているが、十分に出来ていない
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用案内時に、入居者様及び家族様に契約書や重要事項説明書等の内容に疑問点等の無い様に、納得、理解して頂けるよう、丁寧で分かりやすい説明を心掛けている。また利用者様の状況変化による契約解除の場合は、家族等に対応方針を説明し、可能な支援をしている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族の方からの意見や要望等にミーティングで話し合い、前向きに取り組んでいる。家族会でも意見を頂いている。ご意見箱の設置、家族ノートの対応も行なっており、随時連絡ノートで情報を共有し合い、早期に対応を行えるよう心掛けている
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の全体会議とフロア会議で意見を聞いている。また、個別に意見を聞く機会を設けている。変更や改善は可能な限り早期に対応するよう心掛けている
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々に相談、助言、指導等を行っている。個人の問題点や不安点等、早期の解決につなげて、各職員の成長や施設全体のケアの質の向上に取り組んでいる
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の段階に応じた研修を勧めたり、指導を行なっている。また各個人が研修してきた内容について勉強会のテーマとして取り入れ、全職員のケアの質の向上に努めている
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会や研修会等で、一緒になった同業者と意見交換を行いながら、ネットワークを築き、サービスの質の向上に取り組んでいる

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の要望、不安な事等、話し易い姿勢で傾聴し、少しでも不安なく入居出来る様に努めている。ご本人様の訴えが聞き取れない時には家族からの相談が主となるが、施設入居において不安なく入居が出来る様に支援している
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様や家族様の思い、状況を確認しながら面接チェック表等を作成している。不安や要望等をより多く受け止められる様に、話し易い姿勢での傾聴を心掛けている。要望等は全職員が共有出来る様に各ユニットファイルに保管して対応している
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設の説明を時間をかけて行い、ご本人様、家族の実情や要望を元に何が必要かを見極め事業所としてできる限りの対応に努めている
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援に繋がる様に利用者様の主体性を尊重したケアを心掛けている。洗濯物干し、洗濯物畳み、御盆拭き等の軽作業に取り組んで頂き、日常生活を共に支援しながら行っている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルスの影響で家族様との面会の機会が減少してしまったが、ご本認様の日々の様子を月間報告書に記載し、毎月送付している。報告書とは別に、利用者様の変化等、家族様と連絡を取りながら、利用者様を支える関係を築いている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響で知人、甥、姪、孫等との面会の機会が少なくなりましたが、日々の会話の中で、ご家族様の名前や馴染みの有るワード等の話題で会話を行い支援している
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、利用者同士の関りが持てる様にコミュニケーションを行っている。また、お誕生日会や季節行事等を合同で行う事により、ユニットの違う利用者様との交流も深めている
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了したご本人様や家族等に何かあれば何時でも相談や支援に応じる姿勢を示している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面接時、ご本人様やご家族から各個人の生活歴を把握し情報を共有している。入居後も、日々の生活において、利用者様との会話から思いや暮らし方の希望等を聞き、担当者会議とは別に月一回のミーティング等で話し合い確認している
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様が自分らしく生活を送る事が出来る様に今までの個人の生活歴や馴染みの暮らし方が維持できるように努めている。また、日々の会話からも生活歴や馴染みの暮らし方等を聞き取り、把握できるように努めている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の過ごし方や状態等が一目でわかる様に記録に記載している。個々のその時の表情や言葉も記録する様に努めている。必要に応じては連絡ノートを活用し、職員間で情報を共有出来る様に努めている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで利用者様の状況、状態について意見やアイデアを出し合い、情報共有、ケアプランの見直し等を行い、介護計画作成に活用している
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌にその日の状態を記入し、受診や往診時には個別通院ファイルに状態を記入し、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や家族様の状況の要望に向き合い、職員全体で話し合い連携出来ている。ご本人様が穏やかな生活を送れる事を念頭に置きプランの変更や物品の購入等、柔軟な支援に努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響で近隣の喫茶店や回転寿司への外出は実施出来なかったが、感染予防対策を取り、近隣の神社への初詣、近隣の公園や神社へ花見ドライブを行い楽しまれた
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族からの要望を聞きながら適切な医療が受けられる様に馴染みのかかりつけ医や事業所協力医院へのスムーズな受診を支援している。又、要望に応じて訪問診療の対応を行っている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員に健康管理について相談が出来る体制を整えている。必要に応じて、訪問看護とも連携を取り施設看護職が利用者様の処置にもあたっている。利用者様に変化がある場合には、協力医院等の医師や看護職員と相談を行い、随時受診など対応を行っている
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院と同時に利用者様の情報提供を行っている。また、家族や病院関係者と回復状況等の情報交換を行いながら退院支援に結び付けている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から終末期の在り方についてご本人様や家族様から希望を聞いている。入居後も、利用者様の状態に応じて、終末期の在り方について確認を行い、出来る限りの希望に添えるような支援を心掛け、方針を共有している
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	誤嚥等、利用者様の身体状態の急変や事故発生時に的確な対応ができる様、定期的な勉強会を行っている
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練を行い、災害時の避難誘導について指導を受けている(水消火器等)

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様と接する際、上から目線での言葉遣いや対応にならない様、丁寧に温かみのある言葉と口調を心掛けている。又、居室での排泄介助時、戸を閉める、入浴後の更衣時、バスタオルを掛ける等の、プライバシーの配慮を行っている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に合わせて、分かり易い言葉掛けや選択肢の有る声掛けで自己決定できる様に努めている(入浴の順番、衣服選び等)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは有るが、その日の体調や状態に合わせて柔軟に対応を行っている。個々の希望に添った暮らしを提供できる様に努めている
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の衣服を選んで頂いている。ご自分で選べない利用者様には、職員が選んでいるが、同じ服装にならない様に心掛けている。また、地域の美容師の方に来て頂き、散髪や整髪の支援を行なっている
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューについて会話をし、食事を楽しんで頂ける様に努めている。ミキサー食、キザミ食の利用者様には、何のおかずであるか伝え、食事介助を行い召し上がって頂いている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量が把握できるよう努めている。水分摂取量の少ない利用者様へは、その都度、声掛けを行い、水分を摂取して頂ける様に努めている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別の口腔状態に応じて口腔ケアを行なっている。スポンジブラシを使用し、液体歯磨での対応も行なっている。又、週一回歯科衛生士による口腔ケア、嚥下体操、口腔内の状態確認を行い必要に応じて歯科医受診等を行なっている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えない利用者様には、定期的な時間排泄や声掛けによる排泄介助を行っている。介護記録の排泄状況を確認し個々の排泄リズムを把握できるように努めている
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ水分摂取をして頂けるように取り組んでいる。排便チェック表を活用し、個人の管理、把握に努めている。出来るだけ下剤を使用しない様に家族様と相談の上、乳製品の飲み物を摂取して頂き、運動への誘導等も工夫している
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	行事や職員の都合の時間帯の入浴しかできていないが、入浴の順番を配慮している。また、長湯を好まれる方には体調に応じて可能な限り入浴を楽しんで頂けるように支援している
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に応じて居室で休息して頂いている。浮腫の見られる利用者様には、下肢挙上して休んで頂き、寝返りの出来ない利用者様には、寝返り介助等を行っている。個々の体調管理に努め適切な休息や安眠の支援を行なっている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食前、食後の服薬時、職員間での声掛け確認を行い、服用後には介護記録への記入を行っている。又、個別の受診ファイルを設け内用薬の確認、把握を徹底した支援を行なっている(朝・昼・夕の薬が一目で解るように赤・青・緑と色分けを行なっている)
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯畳み、洗濯干し、御盆拭き等の依頼を行い、生活歴を活かした役割が出来る様に支援している。また、感謝や励ましの言葉を伝え、張り合いや喜びを感じて頂きながら生活できる様に支援している
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で近隣の喫茶店や回転寿司等、普段と違った雰囲気や食事を楽しむ機会が出来なかったが、感染予防対策を取りながら、初詣、花見ドライブの外出は行う事が出来た

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したいと思っている利用者様は少ないが、御本人様が希望された時にどのような対応を行なうか本人や家族様と相談しながら支援できる様に努めている。また、初詣時には金銭に触れて御賽銭をして頂いている
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の方へ年賀状の作成や送付の支援を行なっている。ご家族様から手紙が届いた際には、手紙の内容について職員との会話を楽しんで頂いている
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内は歩行の妨げにならない様に物の配置を行っている。空調での室温調整、カーテンの開閉で光の調整、テレビや音楽の音量調整等を行い、心地良く過ごして頂ける様に努めている。ホールや食堂に季節行事の飾り等の飾り付けを行い、季節感を取り入れ感じて頂いている
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き、気の合う利用者様で過ごして頂いている。また、和室で休んで頂けるようスペースを設け、思い思いにくつろげる場所も提供している
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたタンスや机、椅子等の家具を使用したり、好みの布団カバーやカーテン等の生活用品を使用して頂き、ご本人様が居心地良く、安心して過ごして頂ける居室ができる様にしている
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒時の骨折予防の為、フロアは圧縮素材が使用され、安全面を考慮している。また、個人に合わせて室内歩行時には歩行車対応を行っている。また、ご自分で出来る事は、ご自分で行って頂ける様に支援している